

養父市立養父中学校 令和4年度学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

令和5年3月17日

1 学校教育目標

自分のよさや可能性を見つめ、自己肯定感を高めながら、主体的かつ協働的に活動する生徒の育成

2 本年度の重点目標

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」に向けた指導方法等の工夫・改善
- ・学習評価についての実践的研究の推進
- ・共感的な生徒理解と毅然とした対応による生徒指導の充実
- ・コロナ禍での取組を踏まえた「ウィズ・コロナ」の取組への移行

4 総合的な学校関係者評価

依然、コロナ禍での教育活動の展開を余儀なくされた1年間であったが、校内並びに家庭で日常的に感染拡大防止に取り組んだことにより、主な学校行事を当初の予定どおり実施することができた。また、福祉教育やキャリア教育に係る各学年独自の取組も生徒の実態や興味・関心に応じて実施することができ、学年としてのまとまりや充実感を高めることができた。学校運営協議会の委員からも、「学校行事をはじめ諸活動において、生徒の主体性を重んじられていることがよく分かり、すばらしいと思う」、「生徒たちが全体的に落ち着いた学校生活が送れているようで安心している。」、「一人一人の生徒に寄り添うことに限界もあるかもしれないが、それでもよく考えて対応いただけており、ありがたい。」といった評価をいただくなど、コロナ禍であっても創意工夫して取り組んできた成果として受けとめている。学校の環境整備についても、安全確保の観点から積極的に取り組み、修繕を計画的に行うことができた。来年度は、今年度に培った学校全体としての勢いを大切にして、従前より課題となっている①学習指導の工夫と家庭学習の強化、②生徒が話しやすい相談体制の構築、③SNS等の適切な利用に向けた生徒及び保護者への啓発学習の展開など、取り組むべきことをさらに焦点化して、課題の改善と取組の活性化にさらに努めていきたい。

3 学校自己評価結果

〈 A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善 〉

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
小中一貫教育の推進	・小中一貫教育の推進体制の構築と取組の焦点化 ・小中一貫教育に関する保護者・地域の理解の推進 ・小中のつながり・学びのつながりを踏まえた学習指導	A	・推進体制の見直しや取組内容の精選により焦点化して取り組めた。 ・地域と連携し、小中合同のリサイクル活動を計画どおり実施した。 ・期待される効果について吟味した上で実践を展開する必要がある。
危機管理体制の整備	・生徒の危機管理対応能力の育成 ・保護者・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	B	・資料の活用や講師の招聘等により、さらに実践を活性化させる。 ・警察とも連携しながら不審者対応の訓練を実施する必要がある。
教職員の資質向上	・授業の工夫改善、業務改善の積極的な取組の推進 ・課題を共有した校内研修体制の確立 ・生徒理解と指導技術の向上に関する研修の実施	B	・若手教員による研究授業や日常的な相談による支援に取り組んだ。 ・ノート指導や家庭学習の習慣化に向けて実践を共有して取り組んだ。 ・専門家や関係機関との連携による多様な生徒指導の研修に取り組んだ。
施設設備の整備	・施設設備の安全管理体制の整備、安全点検の定期実施 ・学校環境の整備	A	・安全を優先に、修繕や新規設置に積極的に取り組むことができた。 ・感染防止対策としても、衛生環境の整備に努めた。
業務改善 勤務時間の適正化	・学校業務改善(職員会議の効率化) ・勤務時間の適正化に向けた取組 ・生徒と向き合う時間、分掌業務・授業準備等の時間の確保	A	・校務運営委員会を必ず開催し、諸会議の効率と短縮に努めた。 ・ノ一部活デー、水曜日の定時退勤に確実に取り組んだ。 ・職員が日々フル稼働の状態の中、計画的な年休等の取得を促した。
生徒指導の充実	・報告・連絡・相談の徹底と関係機関・家庭保護者との連携 ・いじめのない学校づくり(積極的認知と組織的な早期対応) ・よりよい人間関係・学級づくりに向けた実態調査結果の活用	A	・生徒指導部会等をこまめに開催し、早期対応につなげることができた。 ・いじめアンケート等を定期的実施し、教育相談等が迅速にできた。 ・生活アンケートやi-checkを活用して学級経営の見直し・改善に努めた。
学習指導	・きめ細かな学習指導と学習意欲を高める授業づくり ・小中のつながり(学びのつながり)を踏まえた学習指導	B	・積極的な相互参観による意見交流により、授業改善に取り組んだ。 ・学習評価の在り方について共通理解を図り、実践的研究を重ねた。
道徳教育	・道徳実践力の育成 ・ローテーション授業の実施と道徳の評価の改善工夫	B	・生徒が自分事としてとらえられる授業づくりをさらに工夫したい。 ・ローテーション授業を通して、全員で取り組む意識を高めることができた。
総合的な学習の時間	・主体的な課題発見・解決につながる学習指導	B	・系統的なキャリア教育の推進に向けて「総合」の学習を重ねていきたい。
特別活動	・主体性を育む行事の工夫改善と生徒会活動の充実	A	・学校行事等、生徒の主体的な企画による活動運営を行うことができた。
キャリア教育	・高校入学選抜制度を踏まえた進路指導の充実 ・「そうあんの日」の取組を含むキャリア教育の研修の推進と実践化	B	・3年間を見通して体系的な進路指導に取り組む必要がある。 ・「そうあんの日」について具体的に取り組んでいく必要がある。 ・研修の機会の確保と、キャリアノート等の取組の工夫を図る。
人権教育	・自尊感情を育み、人権意識を高める指導 ・校是「生きるとは分かちあうこと」の具現化	A	・人権週間(人権作文の発表、映画鑑賞等)を実施し、充実を図った。 ・性的マイノリティ等、今日的な人権課題について研修することができた。
特別支援教育	・個別的教育支援計画・指導計画に基づいた指導・支援 ・通級指導の工夫改善を通した「通級」への理解促進 ・SCやSSW、県立特支学校CO等との連携強化	B	・生徒の状況把握とその共有化により見直しを図り、実践化に努めた。 ・保護者とのこまめな情報共有により緊密化を図り、理解を促せた。 ・生徒の状況に応じて助言を仰ぎ、指導・支援の一層の工夫を図る。
情報教育	・ICT機器等の活用による指導方法等の工夫 ・タブレットの利用機会の促進とその価値付けの共有化 ・生徒の情報モラルの向上に向けた家庭との取組の強化	B	・ICT機器を活用し、生徒の関心・意欲を高める授業を実践した。 ・タブレットを家庭に持ち帰った場合の使用のねらいを明確にすべき。 ・PTAと連携し、実態調査の結果に基づく親子学習会を実施した。
国際理解教育	・国際理解、多文化共生の態度の育成	C	・身近に交流の機会もなく、取り組む動機付けに乏しいことが課題である。
福祉教育	・福祉体験活動の推進、高齢者・障害者の理解(人権意識)	A	・感染状況等を見極めて、関係事業所等と協働して弾力的に実施した。
食育	・食育と給食指導の充実	A	・感染状況等を見極めて、栄養教諭と連携して弾力的に実施した。
環境教育	・環境問題に関心を持ち、課題解決への意欲を高める指導	C	・コロナ禍の影響により校外活動もできず、取組不足となっている。
健康教育	・健康に関する実践意欲を高める指導(食育や眠育の推進)	B	・実態調査を踏まえて食育や眠育の取組を具体的に進めることができた。
読書活動	・朝読書の充実(図書室の活性化)	C	・密を回避するため、図書室利用に制約を設けざるを得なかった。

5 評価項目の学校関係者評価

- 自己評価の適切さ
- ・年3回の6年生中学校登校をはじめ、諸事業をほぼ計画どおりに実施することができた。
 - ・小中が共通して実践できる学習指導上の重点項目を明示することにより、効果的に実践交流を図ることができた。
 - ・防犯カメラの設置や不審者対応の実戦訓練にも取り組んでいく必要がある。
 - ・学習や生徒指導のみならず、非違行為の防止等、服務規律についても引き続き研修に取り組んでいきたい。
 - ・超勤時間を意識したコンパクトな生活に引き続き声をかけ合いながら取り組んでいきたい。
 - ・多様な不登校の様相が見られる中、指導体制を整えて個別対応を工夫し、一定の成果を得た。
 - ・生徒が日常的に話しやすい相談体制の工夫を図っていく必要がある。
 - ・「豊かな授業・貧弱な評価」とならないように、引き続き評価に関して実践的研究を重ねていく必要がある。
 - ・道徳の授業の質を上げていくための研修方法について工夫していく必要がある。
 - ・「そうあんの日」の取組を工夫し、養父中スタイルを確立する必要がある。
 - ・コロナ禍の収束を見据えて、「やぶ・ふるさとキャリア教育」の再計画をしていきたい。
 - ・校則の見直し、制服の変更等の動きとも連動させて、人権教育を身近なものとして展開させていきたい。
 - ・特支教コーディネーターを中心に福祉部局や医療機関、県立特支学校等と連携しながら個々の支援について総合的にとらえ、指導に生かすことができた。
 - ・オンラインを活用した授業配信やアンケート集計などで、タブレット端末を効果的に活用することができた。
 - ・栄養教諭と連携し、調理実習を含めて食育に関する取組を計画的に実施することができた。
 - ・新刊紹介、蔵書管理についてさらに工夫を図っていく必要がある。